

千曲中央病院 休床再開について

千曲中央病院
院長 大西禎彦

1.許可病床数 一般 155、療養 40 計 195 に変更なし (表 1)

病棟	医療機能	病床数		
		現在	整備後	増減
3階西北	急性期	(休43) 103	(休15) 103	0
2階北	回復期	52	52	0
2階東	慢性期	40	40	0
		195	195	0

2.一般（急性期）病床の稼働率と手術実績（表 2）

一般病床	稼働病床	入院数	*1 稼働率	手術件数	*2 伸長	
2016年度	114床	26,408名	79%	302件	100%	11月～60床
2017年度	60床	21,281名	97%	347件	115%	
2018年度	60床	20,610名	94%	394件	130%	
2019年度推計	60床	21,273名	97%	672件	226%	8月迄の実績で推計
2019年度8月迄	60床	8,917名	97%	280件		

3.稼働病床数の推移（表 3）

病棟名	2011年8月以前		2011年8月～		2016年11月～		*3 今回の編成	
3階西	急性期	43	休止		休止		急性期	48
3階北	急性期	60	急性期	60	急性期	60	急性期	40
2階北	急性期	54	急性期	54	回復期	52	回復期	52
2階東	慢性期	38	慢性期	38	慢性期	40	慢性期	40
稼働病床数		195		152		152		180

2011年8月に看護師の不足から一般病床の43床を休止し114床稼働とした。

2016年11月に回り八を開始し、一般病床の稼働病床を60床にした。

これ以降、一般病床の年間稼働率が94～97%になり（表2^{*1}参照）病床が慢性的に不足状態となった。手術件数も入院患者数と同様に2016年比226%（表2^{*2}参照）と伸長している。

2019年4月脳神経外科、5月総合診療科、7月整形外科の常勤医師が各1名増員され、特に脳神経外科と整形外科手術の増加に伴う周術期管理のための病床が更に不足になり、二次救急の患者受入れも儘ならない状況となった。

この対策として休床していた一般26床を再稼働させ、既存術後監視2床を合算し、2016年10月迄の運用状況に近い一般病床88床（表3^{*3}参照 稼働28床増、休床15床）に戻し、手術患者と救急患者の受入れに対応したい。